

就活イベントへの出展について（1／2）

⇒ 本協議会が民間の就活イベント（合同説明会・新卒向け）に出展するに当たり、福祉の仕事の魅力の伝え方について、「キャリアアンカー」の8分類に沿って議論を行った。

【専門能力】

- 今後自分の親世代が介護を必要とすることが考えられるため、そういう時に自分に技術があれば、自宅で介護ができるというメリットがあるのではないかな。
- 利用者から「ここが痛い」と言われても、どう痛くてどうしたら楽にしてあげられるのか、普通だと分からない部分が多いと思うが、色々と試して経験を積み重ねるうちに、自分の中で「これってこうすればできるんだ」と気づきがあった。こういった終わりのない正解を見つけていくような過程が好きな人には、そこも魅力であると思う。

【全般管理（マネジメント）】

- 当法人では30代で施設長を務める方もおり、早期にマネジメントに携わることが可能であるところも魅力。
- 現場のマネジメントや責任ある仕事を実施しやすいため、「自分が回している」という感覚が自信に繋がると感じている。

【自律・独立】

- 介護の仕事はやはり正解のない仕事で、自分のやり方を見つけることは必要だが、「自由に仕事ができる」ということだけがアピールされると、「では何をやっても良いのかな」と不安に感じてしまう人もいるのではないかな。
- 人によって介護の仕方が違うと利用者も混乱するので、「自分のやり方で自由に仕事ができる」ことのアピールはやはり難しい。
- （別の観点からの「自律・独立」として、）服装の規定が厳しくないため、あえて利用者から受けが良いキャラクターものの服を着ることで、会話のきっかけとなるよう工夫している。
- 職員がおしゃれをして生き生きと仕事をする姿を見せることは、例えば児童の利用者にとっては、将来の目標として映る可能性もあるのではないかな。

第1回専門部会（若手PT）での主な意見

就活イベントへの出展について（2／2）

【保障・安定】

- 「自分がいずれお世話になる場所を知っておきたい」という気持ちでこの仕事を始めたため、そういったアプローチはどうか。
- 多くの人は介護の仕事というと訪問介護を想像するのではないか。しかし、施設系の職場であれば、わからないことがあっても周囲に聞けるということを事前に知っておけると安心材料になるのでは。
- 困った時に、すぐ上司等に相談できる体制や環境があるというところも魅力のひとつである。

【起業家的創造性（クリエイティブ）】

- ICT等の新しい技術が導入できる余地がまだあり、チャンスのある分野であるという見せ方ができる。
- 絵や歌など、自分が楽しみながら提供したことで利用者が喜んでくれるのが嬉しいと感じるため、「あなたが持っているアイデアや強みが福祉分野では役に立つのですよ」ということをPRできるとよいのではないか。

【純粋な挑戦】

- 例えば資格の中でもケアマネジャーの合格率は低く、そのようなものに挑戦し成し遂げていくという要素もある。
- 資格が無くてもできる仕事であることは伝えたいが、仕事をする中で専門職と触れ合う機会が多くなっていくこともあり、ステップアップのために資格にチャレンジしていくこともよい。

【生活様式（ライフスタイル）】

- 結婚や妊娠・出産等、ライフステージが変化した際にも、福祉の資格を活かして働くことができる。
- 職場により異なると思うが、自分の職場は、休暇や手当の面で子育てに関する支援が充実していたり、有給休暇を取得しやすかったりと、働きやすい職場である。
- 地域密着の仕事であり、家に近い職場を選べることが多い。実際に自分も、徒歩5分圏内にあった施設の夜勤からこの仕事を始めた。

【奉仕・社会貢献】

（特になし）

第1回専門部会（若手PT）での主な意見

大学主催のキャリアセミナーへの出展について

⇒ 本協議会が大学主催の業界研究セミナーに出展するに当たり、福祉の仕事の魅力の伝え方について議論を行った。

- 福祉系の学部ではない学生もいるということなので、まずは福祉の面白さを伝えるため、動画を作成し、実際の現場を見てもらうと良いのではないか。
- 業界研究ということで、一般企業だと商品や企業理念等があると思うが、福祉は、直接目の前の利用者の笑顔が見られる仕事であることなどのアピールが良いのではないか。また、「仕事をしていてどういうことが嬉しいと思うか」といった投げかけも面白いと思う。
- 以前は長くコンビニの店長をやっていた。お客さんに「ありがとう」と言う方から、介護職に転職して「ありがとう」と言われる方になり、やりがいを感じたため、そういった魅力を伝えられたらと思う。
- 大学時代は福祉以外を学んでいた。学生時代に知りたかったこととしては、福祉業界にはどういう資格があるのか。基礎的な資格から上位の資格まで、「こういうキャリアアップが可能」という話を学生時代に知れていたら良かった。
- 介護と一口に言っても色々あるので、介護や施設の種類を伝えるといいと思う。例えば「いきなり人の家に行くのは抵抗がある」と思っている人には、そうではないところもあると伝えたい。生活援助等もあり、必ず排泄・入浴介助というわけでもない。
- 福祉というと高齢者の車椅子を押すようなイメージがあると思うが、児童・障害……と他にも色々ある。また、体だけではなく頭を使うこともできる仕事がある。「体を酷使しなければならない仕事だ」というようなイメージを払しょくしたい。職員の負担を軽減させる道具も以前より普及している。
- 福祉系の学生の場合、実習・研修に行った種別の施設から就職先を選びがちなので、選択肢が狭まる部分がある。そういう面でも福祉の種類を知っておくことは大事だと思う。
- 職場のICT化が進んでいるが、今いる福祉職だけだと活用に限界がある。福祉に関心のある人だけでなく、ICTに関心のある人が入職してくれることで、活用がもっと広がるのではないかと思う。